

昭和56年度から平成4年度までの12年間の学級別学校数の推移をみると、どの年度においても5～11学級以下の小規模校が多い状況にあります。しかし、学校教育法施行規則第17条において標準とされている12学級から18学級の学校数は年度毎に増加し、平成4年度においては、122校で全校比19.9%（昭和56年度88校，13.6%）となっており、また、31学級以上の過大規模校も6校（昭和56年度24校）と改善しています（表5-1）。

したがって、今後は、学級数の変動をみながら、大規模校については学校経営上の諸問題に対処するためにも、その解消を促進するなど、地域の実態を考慮して学校規模の適正化に努める必要があります。

【中学校】

ア 生徒数

中学校の生徒数は、昭和62年度の98,593人をピークに減少傾向を示し、平成4年度には91,405人と5年間に7,188人、年平均では1,438人の減となっています。地域別生徒数については、県北といわきの減少が大きくなっています（図5-2）。

したがって、今後は、県全体としての生徒数の変動を踏まえ、それぞれの地域の実態に応じた教育諸条件の整備に努める必要があります。

イ 学校配置

昭和56年度から平成4年度までの中学校数の推移をみると、廃校は本校の20校となっています。この本校廃止は、昭和62年度の生徒数の減少による1校を除いては、すべて統合によるものです。

設置校は、統合によるもの4校、生徒数の増加に伴う分離によるもの2校、新設によるもの9校の合計15校となっています。

会津地域においては、山村へき地の生徒数減少に伴う廃止・統合等が多い反面、県北、県中、いわきの各地域においては郊外への住宅地の開発が進み、これに伴う分離・新設が多くなっています。

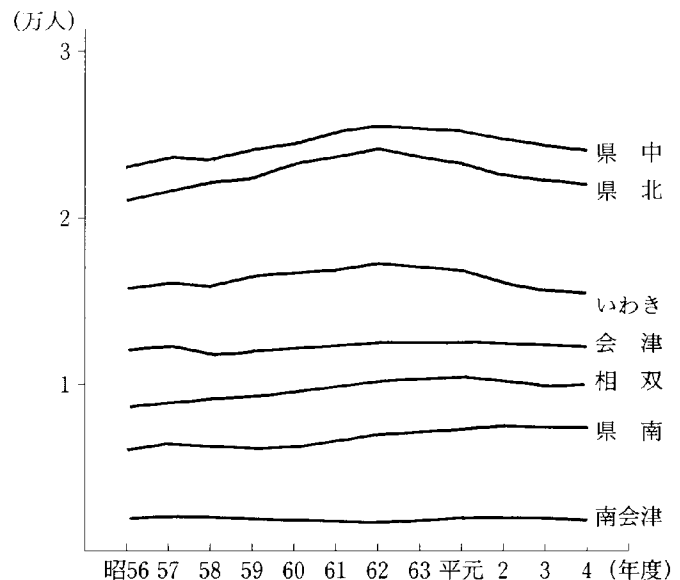
表5-1 学級数別学校数

学級数 年度	0～4	5～11	12～18	19～25	26～30	31～39	計
56	140	313	88	50	33	24	648
57	141	306	100	43	32	26	648
58	132	301	106	55	28	21	643
59	127	302	108	56	28	19	640
60	119	304	112	55	31	14	635
61	118	300	116	62	25	13	634
62	112	304	115	64	22	11	628
63	106	305	114	64	25	7	621
元	105	301	114	65	23	7	615
2	103	305	114	67	23	5	617
3	99	296	122	67	22	6	612
4	98	300	122	63	22	6	611

（注） 学校数は公立のみである。

（資料） 「学校統計要覧」（昭和56年度～平成4年度）

図5-2 地域別生徒数の推移



（注） 生徒数は、公立学校のみである。

（資料） 「学校統計要覧」（昭和56年度～平成4年度）